

生涯発達を支える言語コミュニケーションの支援 ー理論と実践をつなぐ言語活動の充実ー



本校では令和5年度より、新しい時代に求められている能力のひとつである言語コミュニケーション能力に着目し、知的障害児にとってのことばの役割を考え、教育活動の中で言語活動を充実させております。特に、幼稚部から高等部までの発達段階に合わせたことばの役割を踏まえながら、知的障害児の生涯発達を支える言語コミュニケーション能力の育成を目指しております。

つきましては、下記のとおり研究協議会を開催いたします。ご多用のことと存じますが、多くの方のご参加をお待ちしております。

期日：令和6年1月26日 金曜日

会場：東京学芸大学附属特別支援学校（東京都東久留米市氷川台1-6-1）

講演

慶應義塾大学環境情報学部 教授 今井むつみ先生
「ことばの力と思考の育ちをどう支援するべきか」

◆Profile◆

専門は、認知・言語発達心理学、言語心理学。米ノースウェスタン大学心理学部にて博士号（Ph.D）を取得後、慶應義塾大学環境情報学部助手、専任講師等を経て2007年より現職。国際学術会議での招待講演および国際学会での発表、日本認知科学会のフェローに選出されるなど、国内外で活躍される。基礎研究のみならず、教育実践への応用、認知科学と教育の架け橋となるコミュニティ「ABLE (Agents for Bridging Learning research and Educational practice)」を主催するなど、アウトリーチ活動も積極的に行っている。代表的な著書に「ことばと思考」（岩波新書）、「ことばの発達の謎を解く」（ちくまプリマー新書）、「言語の本質-ことばはどう生まれ、進化したか-」（中公新書）などがある。



校長挨拶



藤野 博 (東京学芸大学 教授)

本校は幼稚部から高等部まで4つの学部からなる知的障害の子どものための特別支援学校です。生涯発達支援を理念とし、幼児期から青年期までの教育活動とともに、卒業後の余暇支援なども継続して行っています。そして、コミュニケーション支援をすべての発達段階において生活や学習の土台として重視しています。本年度の研究協議会は「生涯発達を支える言語コミュニケーションの支援－理論と実践をつなぐ言語活動の充実－」をテーマとしました。テーマに関連する各学部の研究授業、ポスターでの研究発表に加え、言語発達研究の第一人者である慶應義塾大学の今井むつみ先生にご講演をいただきます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

スケジュール

9:00-9:30	9:35-10:00	10:10-11:00	11:00-12:45	12:45-14:15	14:25-15:55
受付	全体会	研究授業 公開授業	ポスター閲覧 昼休み	分科会	講演会

研究授業

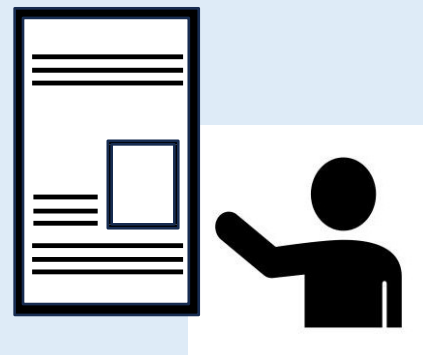
幼稚部	ひかり組	朝の集まり「絵本の世界を味わおう」
小学部	グループ別	国語「つたえよう、たのしもう」
中学部	グループ別	しゅみ「みんなでゲームをしよう」
高等部	1年生	学級「校内にデジタル掲示板を設置しよう」

研究授業以外に、同時間に他の授業も公開しております。

詳しくは当日配布する大会要項をご覧ください。

ポスター

体育館に各教員が実践した言語活動に関するポスターを掲示しており、自由にご覧いただけます。各ポスターにリアクションペーパーを付けておりますので、是非ご意見やご質問を頂戴できればと存じます。いただいたコメントに関しては、後日ホームページで回答を公開いたします。



人と関わるためのことば 「絵本を用いた言語コミュニケーション能力の育成」

幼稚園部

幼稚園部では、「絵本の読み聞かせ」に焦点を当て、ことばの発達や人とのかかわりを促すための手立てについて探ってきた。当日は、全国の現場の先生方を対象に行った調査の結果を踏まえながら幼稚園部の実践を報告し、絵本活用の可能性について考えたい。

【共同研究者】池田一成** 橋本創一** 松本幸代*

世界を切り出すためのことば 「小学部段階におけることばの役割について考える」

小学部

小学部では、ことばの役割の一つ「世界を切り出す」という切り口で児童の発達段階に応じた言語活動の重要性を再認識し、各授業で言語活動の充実に向けた検討をした。当日の研究授業では、国語の授業を通して言語活動を充実させるための工夫について提案したい。

【共同研究者】小林巖** 平田正吾* 村山拓*

経験を整理するためのことば 「余暇支援を通じた言語コミュニケーション支援の検討」

中学部

中学部では、「しゅみの時間」を設定し、将来の余暇活動の充実を目指した「余暇支援」を行っている。一人一人が楽しいと思える経験や、友達と趣味を通して楽しく関わる経験から、自身の気持ちや経験をことばにしたり、伝えたりする支援について検討する場としたい。

【共同研究者】田中美歩* 村尾愛美*

自分自身と関わるためのことば 「自分自身と関わることばを育む授業実践」

高等部

高等部では、自分自身と関わるということばの役割に着目した授業実践を行ってきた。研究授業では、集団での学習場面における授業実践について提案する。分科会では高等部での実践を踏まえて、言語活動の授業実践について広く意見交換ができればと考える。

【共同研究者】内海友加利* 大鹿綾* 奥住秀之*

* 本学特別支援科学講座

**本学特別支援教育・教育臨床サポートセンター

参加費

2,000円を当日受付にてお支払いください。昼食の準備はありませんので、各自でご持参いただくか、近隣の飲食店をご利用ください。

申込方法

本校ホームページ (<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~tokushi/index.html>) の申込フォームまたは、右のQRコードよりお申込みください。締切は令和6年1月15日(月)です。なお、対面開催のみとなります。ライブ配信、オンデマンド配信はありません。

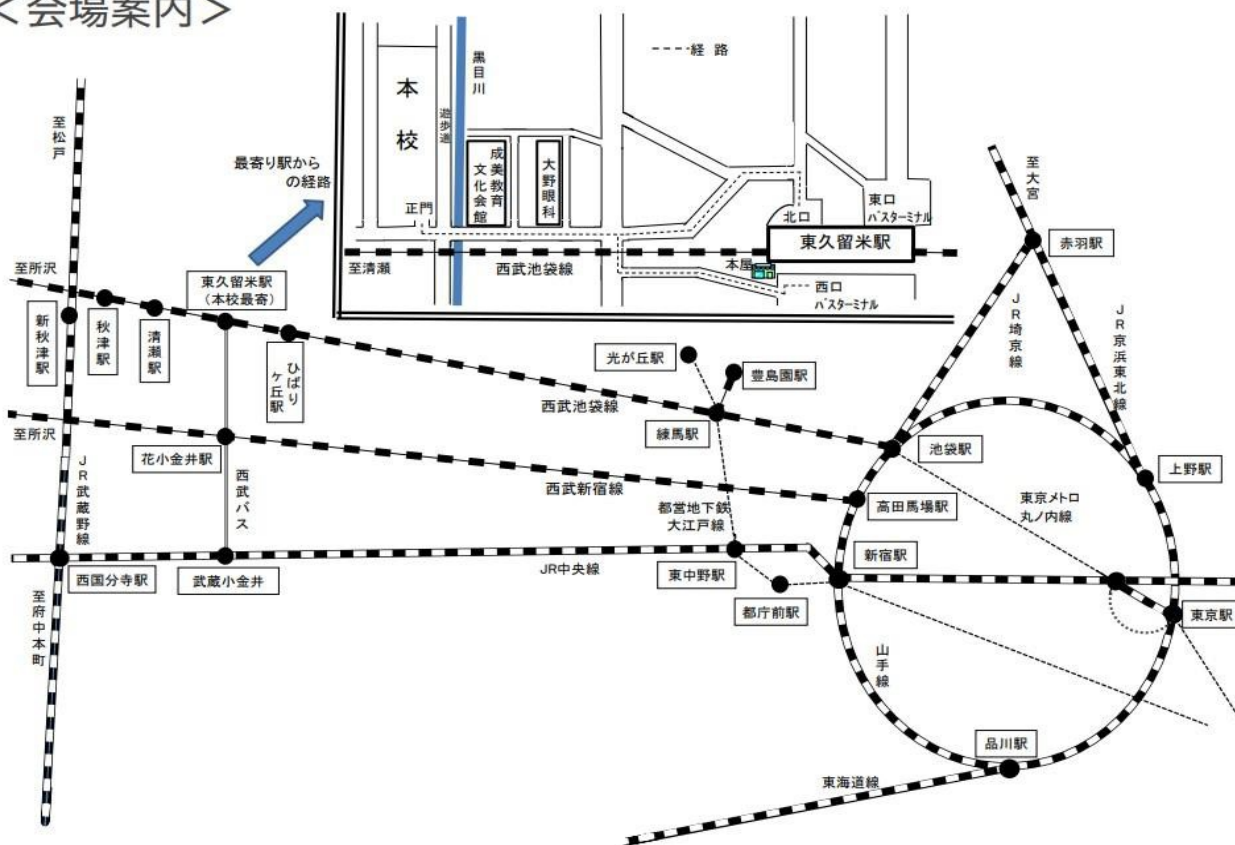


アクセス

西武池袋線東久留米駅より徒歩10分

- ▶ 羽田空港から約90分
- ▶ 東京駅から約50分
- ▶ 池袋駅から約25分

<会場案内>



※お車でのご来場はご遠慮ください。

※スリッパの数に限りがございますので、可能でしたら上履きをご持参ください。

お問合せ

〒203-0004 東京都東久留米市氷川台1-6-1

TEL:042-471-5274 FAX:042-471-5275

担当：研究主任 竹尾勇太 (sskenkyu@u-gakugei.ac.jp)